



【よしむら ゆうな さん】青葉中1年生
●2月2日～5日に長野県で行われた全国中学校スケート大会に北海道代表として出場。3,000メートルと1,500メートルの2種目で共に3位入賞という好成績を納めた。大会で記録した3,000メートルの4分31秒02、1,500メートルの2分09秒32は、共にこれまでの自己ベストを大幅に更新。今後さらなる飛躍が期待される。

あこがれの先輩、穂積選手
を目指してがんばります

2

月に行われた全国中学生スケート大会で、1年生ながら2種目で3位入賞という快挙を成し遂げた吉村優那さん。

「初めての全国大会で最初はとても緊張していましたが、滑り始めてレーンに集中すると緊張はなくなり、からだがよく動きました」と、落ち着いた口調で振り返ります。

より速く、上手にスケートが滑れるようになりたいと思い、千歳スピードスケート少年団に入団したのは小学2年生のとき。スケートの道を勧められた母親と、練習に付き添ってくれる父親に「ありがとうという感謝の気持ちです」と言葉贈る吉村さん。

春から秋は、陸上や自転車を持耐力

をつけるトレーニングを積み、氷が張ると、リンクの上で毎日1時間半から2時間ほどの練習を行っています。低い姿勢を保ちながら滑り続ける練習の後は、足がパンパンになっています。

冬は週末も練習や大会が続ぎ、遊びに出かける時間はほとんどありません。それでも「スケートを辞めたいと思っただことはありません。一緒に頑張る仲間と支え合って楽しく続けています。練習の成果が出て、タイムが縮んだときは達成感があって嬉しい」と話します。

「滑っているときに上半身がぶれないという才能もあるのですが、とにかく一生懸命で、しっかりとした性格」と評価する、少年団の松本敏男監督は

「昨年、足の指をケガしたことがあり、

『2週間は練習を休みなさい』と話をしたのですが、連日、本人が『滑りたい!』と言ってくるのです。それでとうとう根負けして、1週間ほどで練習を再開することになりました。本当に練習熱心で、スケートが大好きなんだなと思えました」と語ります。

将来の夢は?と聞くと、少し恥ずかしそうに「穂積選手のようなスケート選手になりたい」と答えてくれました。

3年前、少年団の仲間と応援したパインクバーオリンピックの舞台で銀メダルを獲得した穂積雅子選手。その姿にあこがれ、ひたむきに日々のトレーニングを積み重ねる吉村さん。そのまなざしは、世界で活躍する先輩の姿を、一歩ずつ、着実に追いかけています。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



吉村

YUUNA
YOSHIMURA

優那

さん